

コラム

ウラギクを見に道東へ

ウラギク (*Tripolium pannonicum*) は海岸の塩性湿地に生育する、薄紫の舌状花と中心部の黄色い筒状花がさわやかなキク科の植物です。ハマシオン (浜紫苑) の別名があります。海外ではアジア、ヨーロッパ、アフリカ北部に広く分布するようですが、わが国では北海道 (東部)、本州 (関東以西の太平洋側)、四国、九州と、あちこちに記録があります。しかし生育環境が限られているため減少してしまい、環境省レッドリスト 2019 では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に含まれています。10 年以上前に霧多布 (浜中町) で見て以来ずっと開花状態のウラギクを見ていないことにハタと気づいて、急に行ってみたくなったのでした。9 月の末ともなると道東ではあまり見るべき花はないので足が向かないのが常でしたが、だんだん先は長くないと思うようになってきたのかもしれない。

なにしろ急に決めたので単独行です。2019 年 9 月 29 日 (日)、早めに札幌を発って釧路市 (阿寒 IC) までは高速道路を利用、釧路外環道経由で昼過ぎに根室

まで、という計画でしたが、睡魔に打ち勝つことはできず何度か休んだり眠ったりしながら陽が傾きかけた頃にやっと春国岱にたどり着きました。車止めからしばらく歩くとウラギクが現れました。遠目には色あせたノコンギクのようにも見えますが、とくに花期を終えたウミミドリや真っ赤になったアッケシソウの中で散在・開花しているので存在感があります。ところがその昔霧多布で見た時には 50-60cm ぐらいの背丈があったはずなのに、春国岱の株はどれも小さくて貧弱でした。残念です。しかしその一方で、明日は野付半島で立派な株に巡り会えるだろうという期待が高まります。3 年前の 9 月初旬に開花前の立派なウラギクを見ていたからです。

翌朝早く野付半島トドワラの遊歩道をトボトボと歩いていくと 1km 余り先から木道 (橋) になり、ところどころ下は海。潮の干満に身を任せてアマモの間をホッカイエビ (ホッカイシマエビ) が流れていきます。ウラギクはたくさん咲いていました。しかしどれも小さな株ばかりで、

見ると主軸の上部はすべて切断されて無残な姿になっているのでした。シカの仕業です。せっかく札幌から何百キロも走ってきたのに、せっかく晩ご飯はコンビニ弁当で済ませ道の駅で車中泊をして早朝から行動したのにと、シカとは無関係なことに八つ当たりしながら少々悲しい結果になりました。帰路は日勝峠経由。葉が落ちたダケカンバが見事で慰められました。

(本多 丘人)



図 1 ウラギク 別海町野付半島トドワラ
2019 年 9 月 30 日撮影